

平成30年度「学力・学習状況」検証事業研究成果報告書

富津市立富津小学校

1 学校紹介

学級数 7 (2) 全校児童数 191名

2 研究主題

「わかる・できる」楽しさを知り、進んで学習に取り組む児童の育成
～算数科における学習システムの充実を通して～

3 研究の概要

(1) 学力向上のための取組

①目指す方向性の共有化

実態把握や課題、学力の捉えなどを全職員で共有することで、目指す方向性を統一している。また、授業改善の方向性を共通理解するために、全国学力・学習状況調査の問題を解く機会を設けている。

②授業改善 ～「書いて考える力」の育成～

- ・毎週、週案と共に「セルフチェックシート」を活用し、自己の授業の振り返りを行い、授業改善に取り組んでいる。指導過程のどの場面で、どのように「主体的・対話的で深い学び」を目指したのか、「書く活動」を中心にして明記する欄を本校独自に設けて、日々の授業を通して意図的に取り組んでいる。
- ・教師の「授業改善」の成果は、児童のノートにあらわれると考え、毎学期、ベストノート賞を各学級で選考し、表彰している（授業部門と自学部門）。教師にとっては、自己の「授業改善の成果を確認する場」として機能させている。

③校内研修

- ・平成28年度から「2 研究主題」に記載したとおりのテーマで校内研修をスタートした。算数科の基本的な学習システムを共通理解し、共通実践することを目指してきた。特に「ユニバーサルデザインの視点に立った授業の進め方」「積極的に問題解決型の授業を展開すること」を重点として、取り組んでいる。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に努めている。

④「チャレンジタイム」

- ・清掃終了後の5分間を「チャレンジタイム」として設定している。本校の課題である基本的な言語能力の育成のために、本年度より1学期は音読、2, 3学期は視写に限定し、全校で取り組んだ。

⑤授業外の取り組み

「学力」を「知」「徳」「体」の総合力として捉え、全てをバランスよく育むために、3つのプロジェクト体制で取り組む。中でも「健康な体プロジェクト」と「豊かな心プロジェクト」は、「学びに向かう力」の土台づくりとして位置付けている。

(2) 加配教員の活用

- ・算数を中心として、教頭・教務主任・加配教員・学習サポーター等によるTT指導や少人数指導を行うことができるように、全校の日課を調整した。

4 成果について

3年間で大きな変容があったのは、「全国学力・学習状況調査」の記述問題の無解答率が下がったことである。また、それに伴い、B問題（特に記述問題）の正答率が上がったことは成果である。